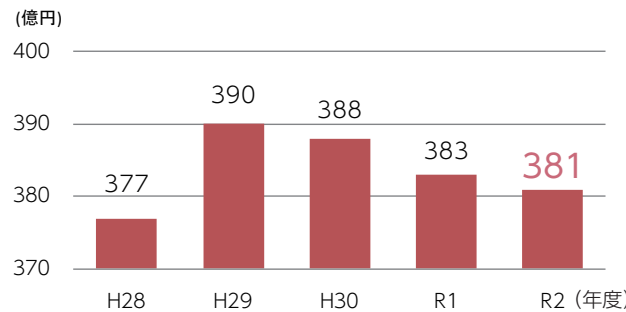


市の貯金と借金(一般会計)

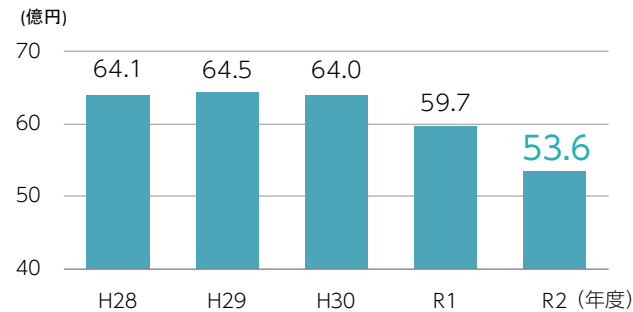
高齢化の進展に伴う扶助費の増加や過去の借金(市債)の返済(償還)がピークを迎えたことで支出が増加したことに加え、吉川町との合併により上乗せされていた交付税額の減少など、収入が減少したことでの収支不足を補うために貯金を取り崩すなどした結果、市の貯金(基金)の残高は、令和元年度から約6億円減少しました。

一方で、借金の残高は事業を抑制したことで、新たな借金よりも過去の借金の返済が多くなったことから、令和元年度よりも約2億円減少しました。

借金(市債)の残高



貯金(基金)の残高



市が借金するのはどうして?

道路や学校など、将来にわたって使用することができる公共施設の整備費用を、現在の世代だけが負担(納税)することは公平ではありません。市の借金には、将来の世代にも返済費用を負担していただくことで、世代間の公平性を実現するという役割があります。

特別会計決算

特定の事業を行うために一般会計と分けて設置される特別会計の決算は、次のとおりです。

	収入額 (A)	支出額 (B)	差引 (A)-(B)
国民健康保険	89億5,609万円	92億4,173万円	△ 2億8,564万円
介護保険	71億1,163万円	69億8,955万円	1億2,208万円
後期高齢者医療事業	14億1,918万円	13億8,766万円	3,152万円
学校給食事業	2億7,052万円	2億6,893万円	159万円

企業会計(水道・下水道)の決算については、広報みき11月号でお知らせします。

今後の見通し

令和2年度決算は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などにより、収入の不足を補うための貯金(基金)の取崩しが前年度よりも増加しました。

今後は、人口の減少や新型コロナウイルスの影響で市税などの収入が減少することが見込まれます。

その一方で、高齢化の進展により社会保障費はさらに増加し、老朽化した公共施設なども更新時期が一致に到来するため、支出は増加していく見込みです。

そのため、現状のままでは貯金の取崩しがさらに増え、いずれはその貯金も枯渇してしまう恐れがあります。

こうした事態を避け、将来にわたり持続可能な財政基盤を確立するため、財政的に体力がある今のうちから、財政の健全化に向けた取組に着手します。

令和2年度 決算見込の概要

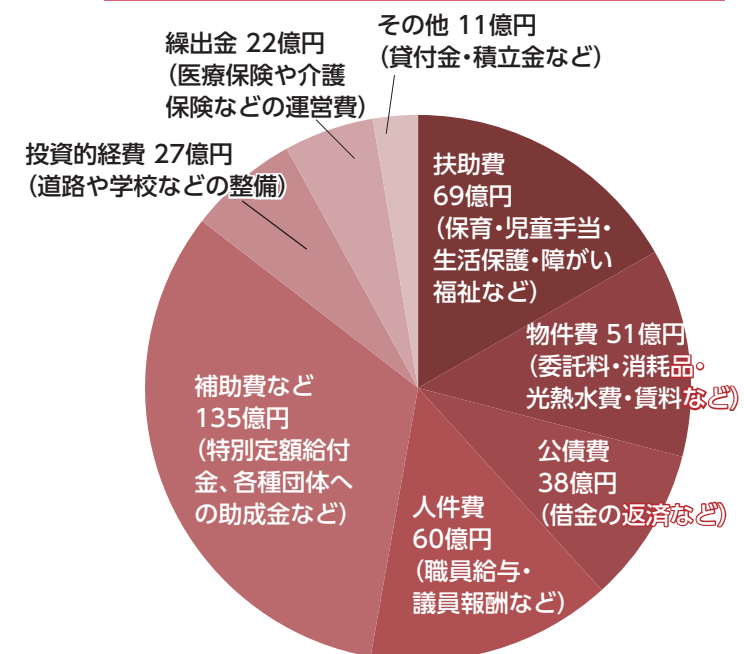
令和2年度の決算見込がまとまりましたので、お知らせします。

新型コロナ対策に取り組んだ結果、一般会計は歳入・歳出とも過去最大の規模となり、歳入決算額は416億円で、前年度に比べ27.0%の増加、歳出決算額は413億円で、前年度に比べ26.7%の増加となりました。

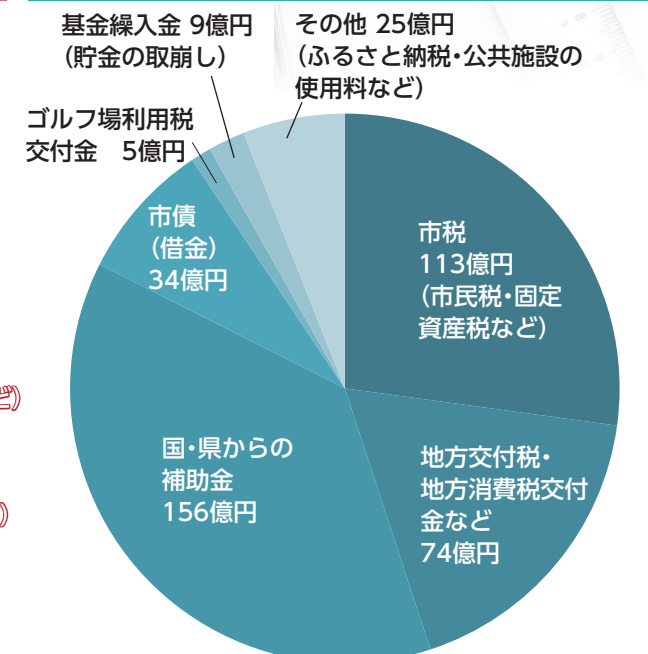
歳入と歳出の差額は2億7,594万円で、令和3年度予算へ繰り越すべき額を差し引いた実質的な収支は9,059万円の黒字となりました。

問(市)財政課 財政係

一般会計の歳出(413億円)



一般会計の歳入(416億円)



新型コロナ対策事業の一例(一般会計)

